

### 市民と学生が自死を考える

龍谷大学の公開講座に751人

龍谷大学の「人間・科学・宗教 オープン・リサーチ・センター」が6月24日、「自死(自殺)という『いのち』の問題にどう向き合うか」をテーマに公開講座を京都市伏見区の同大学深草学舎で開き、市民や学生ら751人が参加した。

「自死対策に取り組む僧侶の会」代表の藤澤克己さん(東京都港区・安楽寺住職)が、電話相談や法律相談所などに付き添うボランティアなど自死防止や自死の活動を紹介します。「死にたくて自殺する人はいない。多重債務や離婚など生きていくことができなくな

らいつい苦しい状況に追い込まれ、本当は生きていけない『死ぬしかない』と思い詰めて死んでしまふ。思い悩んでいる人を遠巻きにせず、共に生きる仲間の『いのち』を支え合う活動を続けていきたい」と話した。

法学部1年の六反田基誠さん(18)は「自分の悲しみに耳を傾け、分のできることから協力しようと思った」、仏教の可能性を探って「京都府西京区の桐山善いきたい」と話した。

いくつかができなくな